

令和7年8月12日

加西市議会議長 中右憲利 様

調査研究実施報告書

会 派 名 加西市民クラブ

代表者名 深 田 照 明

下記のとおり行政視察を実施したので、報告いたします。

記

1. 調査年月日 令和7年8月5日（火）～6日（水）
2. 調査先
鹿児島県南さつま市 鹿児島県南九州市
3. 参加者氏名
深田照明 ※令和新風加西との合同視察
4. 研究目的及び内容
鹿児島県南さつま市「南さつま市役所」（8月5日（火） 13:30～15:00）
 - ・スポーツ競技環境の充実に向けた取り組みについて
 - ・加世田運動公園施設現地視察

南さつま市役所	教育部スポーツ課	大迫課長
南さつま市	教育委員会スポーツ課スポーツ係	大塚係長
南さつま市議会	議会事務局	松山主査

鹿児島市南九州市「南九州市役所」（8月6日（水） 10:00～11:30）
 - ・デジタル化の推進について

南九州市役所	企画課 DX 推進係	志々目係長
南九州市役所	企画課 DX 推進係	南谷主査
南九州市役所	企画課 DX 推進係	西主事

鹿児島市南九州市「知覧特攻平和会館」（8月6日（水） 13:00～14:30）
 - ・知覧特攻平和会館の取り組みについて

知覧特攻平和会館	川崎館長
----------	------
5. 所感
所感は別紙の通り
6. 添付書類
 - (1) 視察行程表
 - (2) 研修資料
 - (3) 写真

◆鹿児島県南さつま市（令和7年8月5日視察）

視察テーマ スポーツ競技環境の充実に向けた取り組みについて

(1) 加世田運動公園の整備状況について

① 整備のきっかけと当時の市民意識

昭和50年代初頭、現在の南さつま市役所(当時は加世田市役所)を建設する場所として、旧の陸上競技場等の土地が選定され、それに伴い、今の加世田運動公園整備事業が昭和52年、鹿児島県の事業認可を受けて始まったようである。当時の整備計画の経緯の記録がなく詳細は分からない。また、当時の住民の皆様が建設にどう関わっていたのかも分からない。

② 整備事業の構想と整備・改修までの過程と財源

昭和55年から平成13年にかけて、現在の広大な敷地(25.7h)に多くの施設の整備がすすんできた。昭和56年12月に体育館(工事費6億9千万円・バレー4面など)が完成、昭和57年に陸上競技場(2億3,271万円・400メートル8コース・砲丸投げ・天然芝サッカー場1面)、59年に野球場(5億3,847万円 外野天然芝 両翼92m)、60年にテニスコート(1億4,749万円・全天候型オムニコート8面)、63年にプール(2億5,011万円)が完成したが、プールは令和2年度コロナ禍もあり利用を休止して令和5年に解体済。そして、平成2年に武道館建設(1億4,038万円)、3年に弓道場(8,113万円)、11年に多目的広場(1億5,742万円・グランドゴルフ4面など)が完成し、総事業費42億9,708万円(土地取得費・造成費・道路整備も含む)の整備事業が平成11年に完工した。なお総事業費のうち、国庫補助金は11億7,640万円である。

年月の経過とともに各施設の老朽化に伴う大規模改修が必要となってきた。平成29年度に第1次長寿命化計画の策定、令和4年度に第2次長寿命化計画を策定し、社会資本整備総合交付金や学校施設環境改善交付金、スポーツ振興くじなど国・県の補助金を活用し、各施設の改修を続けている状況である。

特に陸上競技場は平成28年度から令和元年度にかけて、日本陸連公認競技場4種の取得に向けて、メインスタンド、トラックのウレタン、サッカー場整備など全天候型陸上競技場としての大規模改修を実施した。整備費総額は7億6,295万円で国庫補助金は1億9,175万円であった。

(2) 運動公園の施設管理の方法と予算

① 施設管理

施設管理は平成19年度から、南さつま市体育協会(現スポーツ協会)が年間1144万円の指定管理料を受けて始まり、年々、増加して、令和6年度は4,682万円となっている。なお、備品・修理費など30万円以内は指定管理者が支払い、それを超える備品・修繕費などは市の予算で行っている。

南さつま市スポーツ協会の正規職員は2名でパート勤務8名、計10名で施設の利用受付、天然芝の水やり・管理、樹々の伐採・管理、陸上競技場のコースウレタン管理など、幅広い分野の業務を行っている。

(3) 加世田運動公園の利用状況

① 体育館の利用状況

体育館は令和2年度は22,307人、コロナ禍の令和4年度は11,395人と減ったが、令和6年度は33,657人と増加している。令和6年度の伸びは鹿児島県日置市を本拠地とするプロバレーボールチーム「フラーゴラッド鹿児島」のサブタウンとして、公式戦を4試合行ったことも要因である。

②陸上競技場の利用状況

陸上競技場も令和2年度は17,150人、コロナ禍の令和3年度は13,849人と減ったが、令和6年度は21,244人と増加している。この陸上競技場のサッカー場は天然芝で整備されているので、2020かごしま国体の少年サッカー大会のメイン会場としても使われた。また最近では近くの鹿児島県立吹上浜海浜公園のサッカー場（天然芝3面）も併用して、関東の学生サッカーチームの合宿、西日本高等学校サッカー大会の開催、そして、南日本女子駅伝、市民体育大会の会場としても利用がすすみ、利用者は増加傾向にある。

③その他施設の利用状況

令和6年度の野球場利用者は5,302人、テニスコートは8,709人、弓道場は2,896人と一定数の利用があり、全施設の利用者合計は年々増加している。野球場は両翼92メートルと公式戦ができないが、韓国のプロ野球チームのキャンプ練習場としての利用が増加している。そこで、防球ネット・トイレ、観覧席の改修などをすすめている。

(4)市民の健康増進と施設利用促進

①健康ポイント事業

南さつま市では健康ポイント事業として、健康づくりのイベント参加や体操、ウォーキングなど運動習慣の継続でポイントをためることを市民にすすめている。そのためにも、陸上競技場や施設内の道路を夜でも自由に安全に歩けるように照明などの整備を進めている。また、各施設の利用率があがっているが市民団体などの予約を優先するように努めている。

◆鹿児島県南九州市（令和7年8月6日視察） 視察テーマ デジタル化の推進について

(1)全庁的なデジタル化推進の目標とすすめ方

①2021年にDX推進本部を設置

南九州市では2021年にDX推進本部を設置し、「紙も残しながらもオンラインという手段を増やす」という目標を掲げ、デジタルになじみのない市民や職員にとってもわかりやすい説明をして、なじみやすい状況を作り、いきなり「すべてをデジタルに」と打ち出すのではなく、時間をかけてオンラインを手段の一つに据えて徐々に浸透させていくことで、庁内外の理解を深めていった。

②2023年にDX推進計画を策定

よりDX化推進を図るため、2023年度にDX推進計画を策定し、同年夏に「Grafferスマート申請」ソフトを導入し、オンライン申請が本格化した。そしていまも手続きの洗い出しや庁内研修、伴走支援などを通じて、全庁的なデジタル化を推進している。

③南九州市のデジタル化成功の要因

デジタル化への一步を踏み出す際に「デジタル田園都市国家構想交付金」を活用して申請書類を作成する「Grafferスマート申請」を導入することができて、全庁的なデジタル化を効果的かつ迅速に進められた。

担当課にとって、初めてのオンライン申請フォームの作成は簡単ではないので、DX推進係の我々が研修やテンプレートの導入、そして伴走支援によって、担当課を積極的に支援して、デジタル化へのハードルを下げて積極的な参加を促進している。

④デジタル化により変わる職場風景

現在、新市役所庁舎建設が令和8年9月完成予定ですすんでいるが、すべての公文書がデジタル化され、職員全員が固定の席で勤務する必要性が低くなり、各課の共有スペースに課員がノートパソコンを持って集まり、紙資料を広げること無く、どこでも会議や職務実施が可能となるよう、旧庁舎でも取り組む部署を増やしている。

いまは3つの庁舎に分かれている職員が新庁舎に集まっても、スペースの効率的な使い方ができる予定である。

(2) 電子申請利用状況

①スマート申請の利用状況

市民が来庁せずにスマホやパソコンから、いつでもどこでも手続きができるスマート申請は令和4年度から始まり、申請手続き数は4年度96種類・申請数は2,214件、5年度は149種3,375件、6年度は216種16,098件、7年度途中で57種4,171件と総計は延べ354種類、申請数総計は25,858件と多くのデジタル化の開始から申請が順調に伸びてきている。

その中には工事関係の指名競争入札書類、補助金申請書類なども含まれ、その申請書類などに電子決済機能も付いており、証明書等の交付も簡単にできるので、各職場での対応も間違いなく迅速にできるようになっている。

②公共施設オンライン予約

公共施設登録数は120施設あるが、スマホやパソコンで簡単に空き状況の確認、予約申請ができる。スマホ対応などがしにくい方のために施設窓口には紙の利用申請書もあるが、できるだけオンライン予約を推奨している。

③南九州市 LINE 公式アカウント

防災無線情報・イベント情報、観光情報、市政情報などをLINE公式アカウントで発信している。登録者数は令和7年8月現在で32,590人と人口の31,000人を超えている。これは商工会のクーポン発行事業で他市の方も登録されたからである。

④デジタル人材育成と市民への啓発

DX推進員育成研修やイベントでのスマホ相談ブースで、デジタル申請のやり方や活用方法を研修している。

(3) 電子申請システムの構築と利用内容

①Graffer スマート申請の導入

Graffer スマート申請とは、株式会社グラファーが提供する 行政手続きのオンライン化プラットフォームで、申請書手続きがスマートフォンやPCで申請・本人確認・料金支払いまですべてオンラインで行えるソフトである。住民票や戸籍謄本の取得、転出届の提出などを自宅から簡単に進められ、システムのバージョンアップも早く行われ、自治体からの要望に対する対応が早く、全国の自治体での導入がすすんでいる。

②電子決済のやり方

マイナンバーカードの読み取りアプリにより、専用リーダーが不要で電子署名から決済までワンストップで行える。また基本情報(氏名・住所・生年月日)はマイナンバーカードから自動読み取りをするため、入力する必要はなく簡単である。

③スマート申請書類の申請数ベスト5 (申請数総計 25,858 件のうち)

・定額減税しきれない分の調整給付のオンライン申請	1,738 件
・令和6年度就学援助申請	1,532 件
・令和7年度就学援助申請	1,308 件
・戸籍抄本・謄本のオンライン申請	1,251 件
・サービス利用計画案・モニタリングなどの提出	593 件

④アンケート機能の戦略的な活用

南九州市の用紙を減らす戦略として、各種申請は「デジタルでやるのが当たり前」という雰囲気醸成するために「Graffer スマート申請」の「アンケート機能」を積極的に活用して、市民向けのアンケートや庁内の調査への活用をすすめている。

⑤アンケートの申請数ベスト5 (申請数総計 43,611 件のうち)

・給食についてのアンケート	4,558 件
・令和6年度健康診査等受診希望調査票	2,707 件
・令和7年度健康診査等受診希望調査票	2,535 件
・部活動地域移行に関するアンケート	511 件
・南九州と議会に関するアンケート調査	437 件

(4) 業務改革(BPR) 支援の取り組み状況

近年の職員数減少で一人当たりの業務量が増加しているが、デジタル化を推進することで業務の負担軽減、業務の見直しが行なわれ、余裕やゆとりを創出することを目指し、DX推進課が中心となり職員研修や申請書類作成の指導を続けている。

しかし各課からの要求や問い合わせも多く、すべての書類管理や問題解決を迅速に図ることは難しく、業務の優先度を視覚化するのが困難であったので、DX推進課と各職場をつなぐ問題解決シートとして、Webブラウザ上でドラッグ&クリック中心の操作のみで、簡単にExcel表のような業務管理ができるプリザンター (Pleasanter) アプリを令和7年5月に導入して、支援依頼の状況をすべての職員から閲覧可能にした。このことで、複数部署での同じような業務やその問題点・悩みもわかり、対応が早くできるようになった。

(5) DX推進課としての課題

係が3名のみで依頼が重なり、対応速度が遅くなり、優先順位の付け方が難しい時がある。また、申請書類作成もできるだけ簡易的なものを目指すので、各課との調整にある程度の時間がほしい。市ではソフト開発も含めて、外部委託は極力抑えているので係員のプログラミングの知識向上も課題である。

◆鹿児島県南九州市 (令和7年8月6日視察)

視察テーマ 知覧特攻平和会館の取り組みについて

(1) 施設の基本理念

①史実を伝える場としての学び

知覧特攻平和会館の使命は単なる戦争史資料館ではなく、平和を希求するための記憶の場として、史実をありのままに伝え、児童・生徒達に同世代の若者の思いやエピソードにふれて、自分ごととして「平和・いのち」について考える場である。

特攻の歴史的背景、隊員の遺書、手紙などの説明を語り部から聞いて、より深く考えてほしい。

〔所感〕 深田照明

【鹿児島県南さつま市】 スポーツ競技環境の充実に向けた取り組みについて

南さつま市には 400m8 レーンの全天候型陸上競技場、両翼 92m の野球場、バレーボールが一度に 4 面もできる大型体育館、テニス場、武道場、弓道場などの運動施設が広大な 25.7h の公園内にゆったりと整備されている。人口 30,652 人(令和 7 年 3 月末)と加西市より人口規模が小さな市でありながら、これらの運動施設が立派に整備され、多くの利用者があるという説明に正直驚いた。

この運動公園整備計画は昭和 55 年に南さつま市役所(旧加世田市役所)の建設場所として、旧の加世田陸上競技場が選定され、新しい陸上競技場を現在地に移転することから始まり、平成 11 年までの 19 年間をかけて、今の形ができたとのことであつた。その総事業費 42 億 9,700 万円のうち、国庫補助金は 11 億 7,640 万円で自主財源率は 73%と大きな資金を投入されていた。その財源を聞いたが、もともと、旧加世田市は財政的にも豊かな市であつたとのことである。

しかし、施設の充実に伴い、日頃の施設の運営・維持管理費も大きく、市の財政を圧迫しないためにも施設の稼働率をあげる努力をされていた。幸い、南さつま市運動公園の近くには鹿児島県立吹上浜海浜公園があり、そこには天然芝サッカー場が 3 面、加世田陸上競技場のサッカー場 1 面と合わせて 4 面の設備が充実しており、地域の中学、高校のサッカー部合宿・大会場所、関東地方の大学サッカー部の合宿場所として、また、野球場は韓国のプロ野球チームの合宿、体育館は地域のプロバレーボールチームのサブ大会開催などとして、年間を通した利用が定着しているというのは聞いて、韓国にも近い立地がとても良いと感じた。

また、市民の健康意識も高く、健康ポイント事業も展開されていて、運動公園を利用した夜間ウォーキングにも照明設置で配慮していくとの力強い言葉に担当者の熱意を感じた。

加西市も陸上競技場建設を考えているが、建設後の利用率向上と市民への健康増進への還元をしっかりと考えていかなければならないと思った。

【鹿児島県南九州市】 デジタル化の推進について

南九州市のデジタル化は庁内の紙媒体を無くし、市民からの各種申請書類をオンラインでデジタル入力できるシステム構築を目指している。そのために 2023 年 DX 推進計画を策定し、国のデジタル田園都市国家構想交付金を活用した「Graffer スマート申請」ソフトを導入されている。このソフトの導入で全庁的なデジタル化が効率的かつ迅速に進み、過去の業務記録紙媒体もパソコン内に保存することができて、職員が自席で書類を保管する必要も無く、ひいては固定の席で勤務する必要性も減り、共有スペースに職員がノートパソコンを持って集まり、自由に職務をすることができて、スペースが限られている市役所の執務室が効率的に広く使えるようになったとのことであつた。働き方改革の一環としてもとても有効と思うが、自席が無いというのも職員にとっては少し慣れるまで時間がかかるように感じた。

でも、デジタル化は市民にとっては来庁する手間をなくすメリットがあり、市職員においても、紙用紙の申請書類からの転記ミスも無くなり、事務処理が早くなっていくのは良いことと思う。

しかし、DX 推進課の人員は現在 3 名で職員 500 名の要望を受けて、申請書類のデジタル化、業務改善ツールの開発など、業者委託は極力せずに庁内のデジタル化を進めていくのは大変という本音も聞かせて頂いた。加西市も将来、よりデジタル化をすすめていくと思うが、担当職員に過度の負担がかからない体制づくりも重要である。

【鹿児島県南九州市 知覧特攻平和会館】 平和学習の取り組み

知覧特攻平和会館は単なる戦争資料館ではなく、平和を求めるための記憶の場として、当時の若者の思いや特攻に至る歴史的背景などの史実をありのままに伝え、見る人たちに当時の人々の思いやエピソードを自分事に考える場として欲しいと言われる館長の言葉に共感した。自分も含め、子ども達など後世につながる人々が、日本・世界の平和を守っていくためにはどう行動するべきか、改めて深く考えさせられる場所であつた。

その思いは加西市の sora かさいにも通じるものがあり、sora かさいが単なる観光目的の場所ではなく、平和を考える場所となる運営をしっかりと続けてほしいと願っている。

令和新風加西、加西市民クラブ 行政視察 行程表

8月5日(火)

09:20 発 伊丹空港(JAL2403)

10:30 着 鹿児島空港

【レンタカーで1時間10分】

「南さつま市内で昼食」

13:30～15:00

南さつま市視察 (TEL:0993-76-1703)

- ・スポーツ競技環境の充実に向けた取り組みについて
- ・加世田運動公園施設現地視察

《宿泊》 サンステイ加世田

南さつま市加世田東本町 12-9 (TEL:0993-53-8000)

8月6日(水)

09:00 発 ホテル

【レンタカーで30分】

10:00～11:30

南九州市「南九州市役所」 (TEL:0993-83-2511)

- ・デジタル化の推進について

「南九州市内で昼食」

【知覧特攻平和会館へレンタカーで移動】

13:00～14:30

南九州市「知覧特攻平和会館」

- ・知覧特攻平和会館の取り組みについて

【レンタカーで1時間10分】

17:40 発 鹿児島空港(ANA500)

18:50 着 伊丹空港

◆鹿児島県南さつま市 （令和7年8月5日視察） スポーツ競技環境の充実について



◆鹿児島県南九州市 （令和7年8月6日視察） デジタル化の推進について



◆鹿児島県南九州市 知覧特攻平和会館 （令和7年8月6日視察）

